

令和5年度 上田市立丸子北中学校 学校評価シート

学校教育目標	目指す生徒像
①自ら考え、進んで学習する生徒(自主) ②思いやりのある、心豊かな生徒(友愛) ③明るく健康で、粘り強い生徒(鍛錬)	夢の実現に向け、学び続ける生徒
	今年度の重点 「安心して学べる授業・安心して語れる教室に」
	○自分の言葉で語る生徒の育成(主体的・対話的で深い学び、言葉で繋がる関係)
	○自己有用感を高める言葉がけ
	○将来の願いや夢を育む活動
○中学生らしくけじめある健やかな生活	

総合評価					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
・学校ホームページの頻繁な更新により情報発信をして頂いていることは、生徒、保護者、地域の方々との関係性を維持していく上で大変重要で、引き続きの運営をお願いしたい。 ・学校教育目標が、学校だより、教室、校内に掲げられ、それと日常の教育活動がリンクされた活動が多くみられた。 ・コロナ禍が峠を越し、生徒も職員も通常の生活に戻り、安心して学校生活に取り組んでいた。しばらく休んでいた活動もあり、「継続」ということでは難しさもあった。しかし、逆にとらえて、新しい道を探るにはよいタイミングかと思う。 ・「学校が楽しい」が90%でありありがたい。これは本校の特色として特筆すべきことである。一方、考察にもあるが、「1人」の困っている子がいる限り、大事にしている学校でもありたい。					
・一時間の授業の中で、このような場面を設けようとする工夫が見られた。 ・周囲のことやその場面の応じて、自己表現できる生徒たち。 ・服装、あいさつ、交通ルールを守る頭、決まりよい生徒。 ・多くの生徒が、学習内容を理解できていると答えている。 ・保護者アンケートの、明るい表情で学校に登校している、の数値が少し心配。 ・核家族化が進み、親も子ども一懸命になりすぎてかわいそうなところもある。		○			・授業の様子については、外からは分からない。学校全体で、職員が、これだけはやっていこう、という目に見える方策があると評価しやすい。子どもたちにとっても、目当てが分かると良いのではないかと。 ・学んだことを実践し、礼儀正しくでき、言われたとおりにあいさつもでき、うれしかった。 ・学校へ行くくと元気が出る。昔と違ってだんだんと地域の人も学校には入れるようになり、元気をもらった。
	○				
	○				

領域	対象	評価項目	評価の観点
学校教育	学習指導	個に応じた授業	生徒の実態、学級の実態を把握し、授業方法の改善に努めているか
		めりはりのある授業	教材の工夫、学び合いの場の設定など、わかりやすい授業づくりに努めているか
		授業の見とどけ	振り返りの場面を設定し、学力の定着や見とどけを丁寧に行っているか
	生徒指導	カウンセリングマインドに基づく生徒指導	生徒相互の良さを認め合う活動や温かい言動が取れる教育を実践しているか
		職員の共通理解とシステムで指導できる体制	報告、連絡、相談の体制は、係を中心にシステム的に機能しているか
	教育課程	道徳授業・人権教育	実践と評価を繰り返し指導し、いじめの防止・早期発見・指導ができたか
		キャリア教育	生徒が目標をもてるキャリア教育が進められているか
学校運営	地域との連携	地域に開かれた学校	地域の方が喜んで来校する「丸子コスモス大学」「北中CS」の運営の工夫ができたか
			地域の実態や思いを理解し、集会や作業へ生徒が意欲的に参加できるよう働きかけたか
	PTA活動	担当部はPTAと協力して意義ある活動ができたか	
	研修	職員研修	研修で学んだことを生徒に還元できたか

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
授業参観の印象としては、先生方はしっかり教材研究をして授業に取り組んでいる様子。	○				個に応じた学習の実現のために、パソコン、タブレットなどのデジタル機器の活用などの授業方法の可否を検討する。
全国調査の結果はどうでしょうか。		○			全国評価は、ほぼ全国平均の水準だが、下回っている教科(分野)もある。生活アンケートの結果はとても良いので、良さを生かしていく。
単元テストの導入により、学力の定着と個々の生徒の学力の見とどけを行っている。		○			教師がねらう「みとどけ」と、生徒の学びが一致しているか、さらに実践を積み重ねる必要がある。
人間関係の生徒アンケートが、いずれも高い数値であり、評価したい。	○				高い数値でありがたく思う一方で、1人でも、人間関係に不満を感じる生徒がいることを忘れず、心に寄り添った支援を心かける。
不登校の生徒さんの進路指導と進路の実現に力を入れてくださって、感謝です。	○				生徒アンケートと保護者アンケートの差がある。保護者との話し合いの機会を平時においても多くとりたい。問題が起きてからの話し合いになりがち。
教職員の働き方改革と相まって、情報が共有される職員組織が整ってきた。	○				アフターコロナをふまえ、機能していない係があることも見えてきた。具体的な洗い出しを行う。
最優先で取り組んでおられ、感謝です。	○				・将来について考えをもつことについて、やや低い傾向にある。職場体験やOBの方々の話などをもう少し活用していくことがのぞまれる。
地域の方々は、北中生は頼りになると感じている。将来について考える機会があるとよい。		○			オンラインだけでなく、体験を通して夢が見えるようにしたい。3割強の生徒が、進路について不安がある様子。「将来」を「限りなく直近の目標」と置き換えてみてはどうだろう。
コスモス大は時数が限られていたが、生徒の意欲や作品が素晴らしい。長年やってきて、課題も見えてきている。	○				職員、生徒、保護者を交えて、次の10年を考える方向を見いだしてほしい。カリヨンルームの効果的な活用方法について、見直しを行う。
文化祭の「おやぎ」の販売、当日の朝、暗い内から、あさつゆで、北中生の笑顔があった。		○			コロナの影響で、このような行事が途絶えてしまった。復活を期待したい。
70周年記念事業、制服のことなど、学校とよくコミュニケーションが取れていると感じた。	○				担当教職員のご協力と文書作成などの多大なご協力により、連絡体制が取れている。今後も続けていく。
重点を決めて研修されている方法はよいと感じた。		○			協働的な学びを意識した授業実践の積み重ねを続ける。